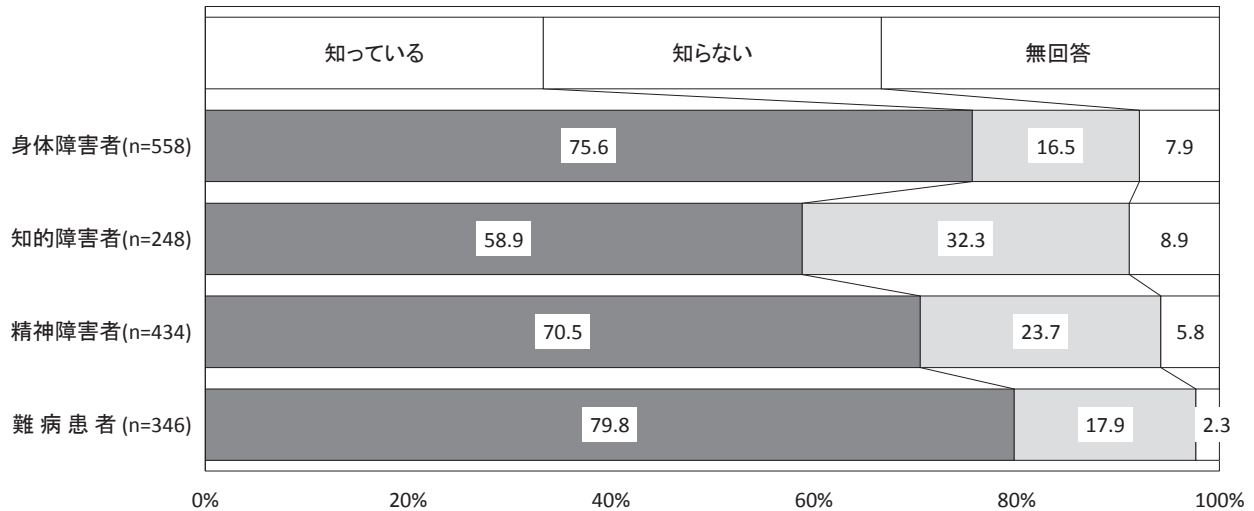


# 11 災害対策について

## (1) 最寄りの避難拠点

### ① 最寄りの避難拠点の認知度

最寄りの避難拠点を知っている人の割合は、身体障害者が75.6%、知的障害者が58.9%、精神障害者が70.5%、難病患者が79.8%となっている。



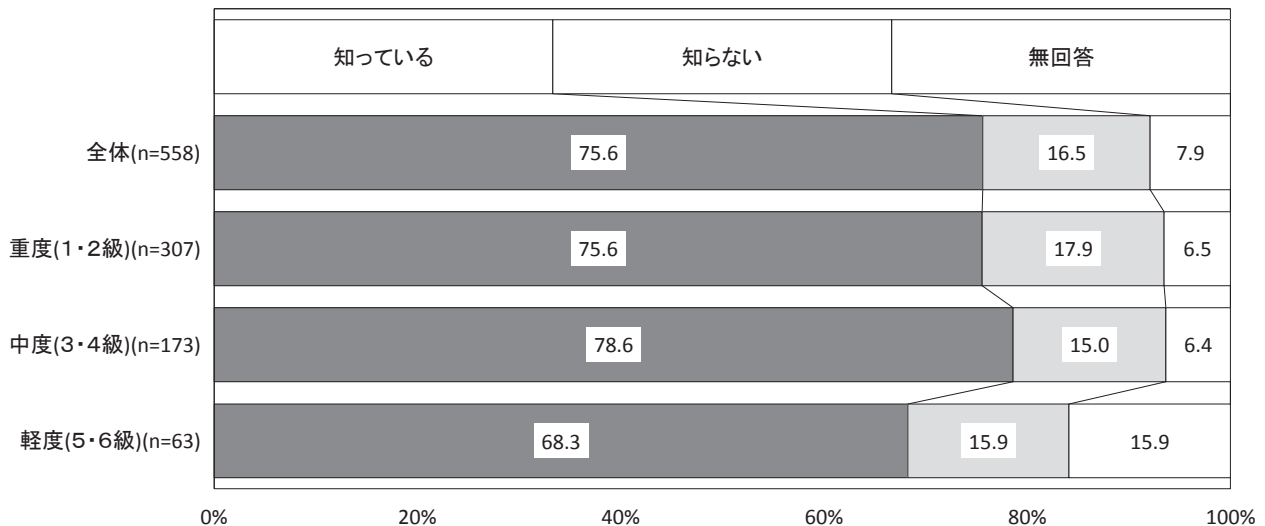
### 【前回調査との比較】

(単位：%)

区 分		1 位	2 位
身 体 障 害 者	今 回 (n=558)	知っている (75.6)	知らない (16.5)
	前 回 (n=2,064)	知っている (67.6)	知らない (24.3)
知 的 障 害 者	今 回 (n=248)	知っている (58.9)	知らない (32.3)
	前 回 (n=350)	知っている (54.3)	知らない (42.0)
精 神 障 害 者	今 回 (n=434)	知っている (70.5)	知らない (23.7)
	前 回 (n=311)	知っている (50.5)	知らない (45.0)

### 【身体障害者】

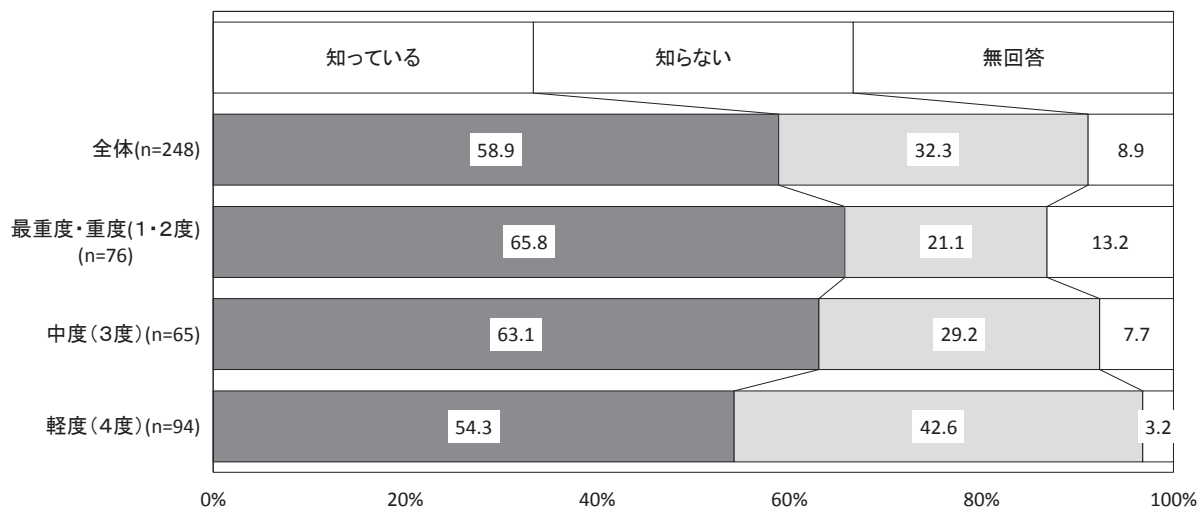
障害の程度別にみると、軽度（5・6級）では「知っている」（68.3%）が少ない。



### 【知的障害者】

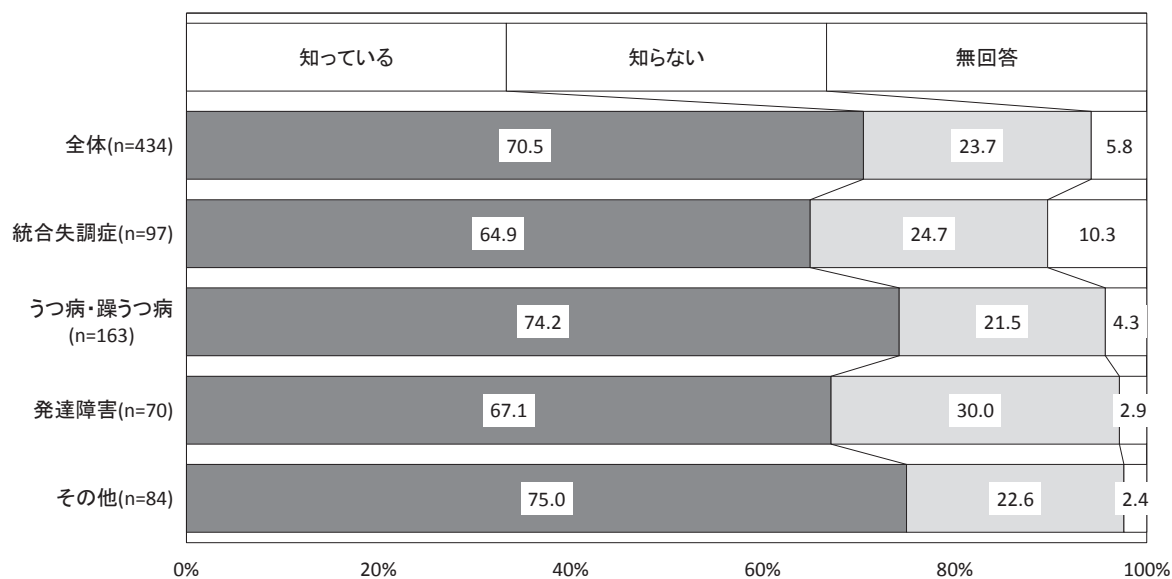
障害の程度別にみると、軽度（4度）の人ほど「知っている」の割合が低下し、「知らない」の割合が高くなる傾向がみられる。

最寄りの避難拠点の認知度



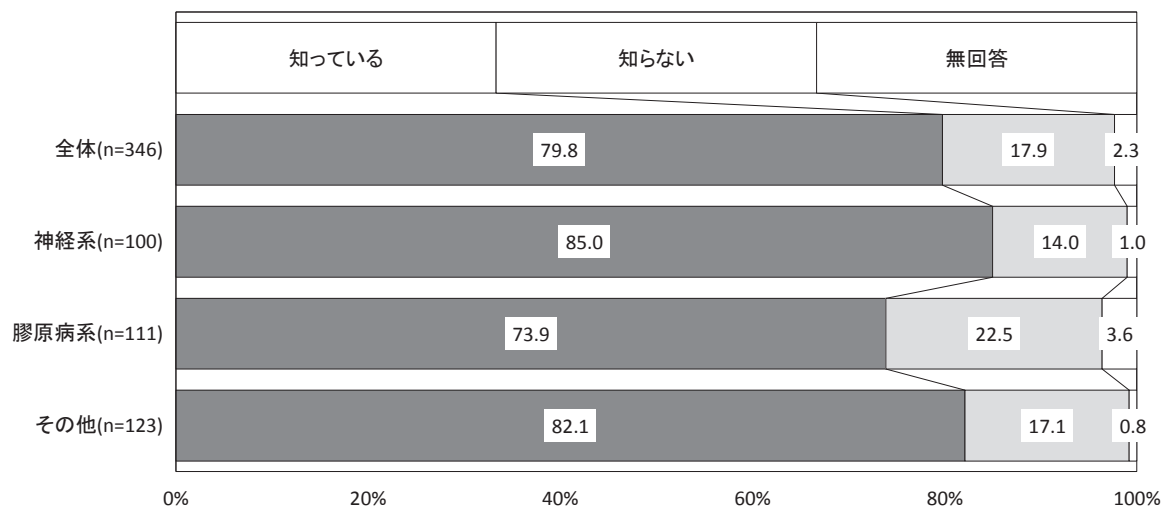
### 【精神障害者】

診断名別にみると、発達障害と診断されている人では「知らない」が30.0%である。



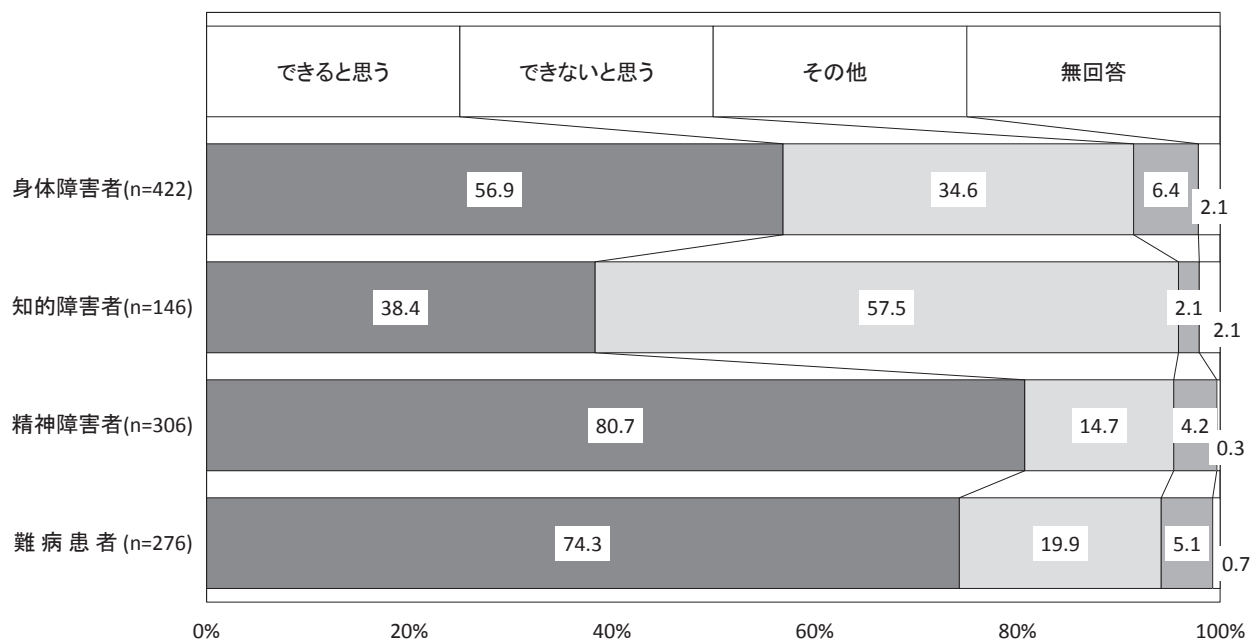
### 【難病患者】

疾病系統別にみると、神経系では「知っている」（85.0%）が多い。



## ② 最寄りの避難拠点まで自力避難の可否

最寄りの避難拠点まで自力避難が「できると思う」と回答した人は、身体障害者が56.9%、知的障害者が38.4%、精神障害者が80.7%、難病患者が74.3%となっている。



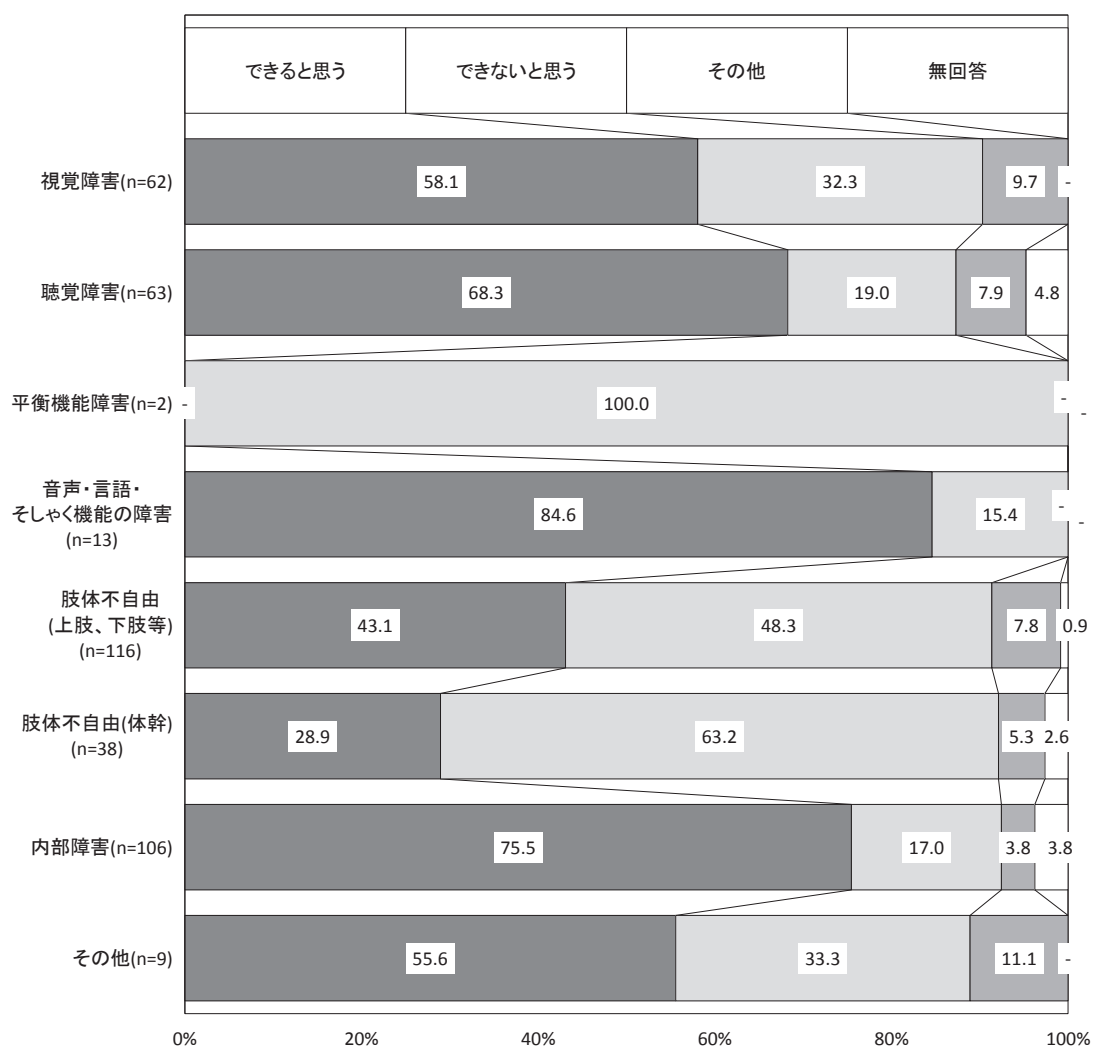
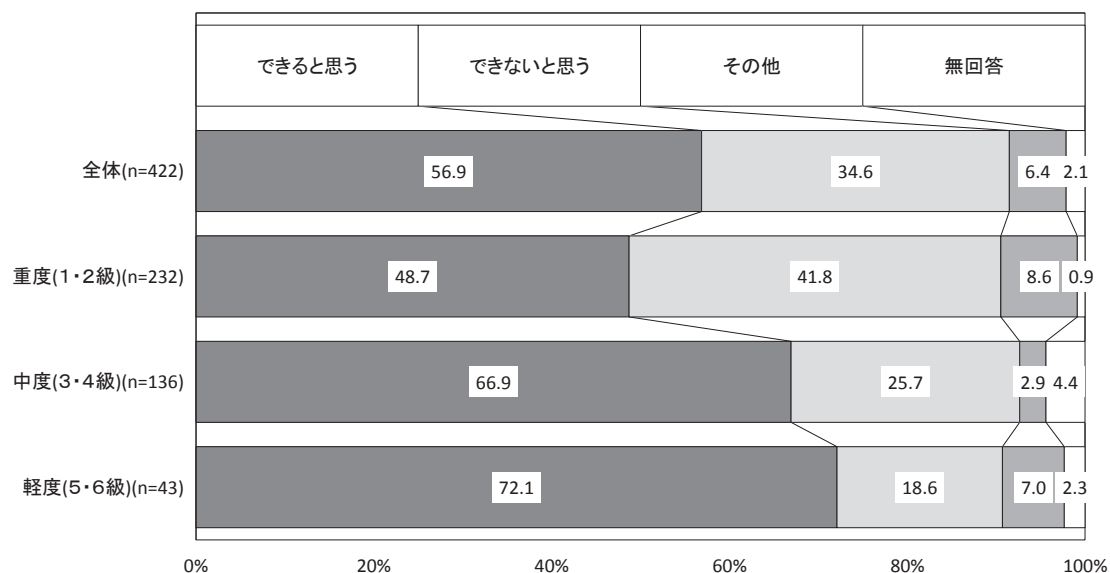
※ベース：避難拠点認知者

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、軽度（5・6級）の人ほど「できると思う」の割合が高くなっている。

障害の種類別にみると、聴覚障害、内部障害では「できると思う」（それぞれ68.3%、75.5%）、肢体不自由（上肢、下肢等）、肢体不自由（体幹）では「できないと思う」（それぞれ48.3%、63.2%）が多い。

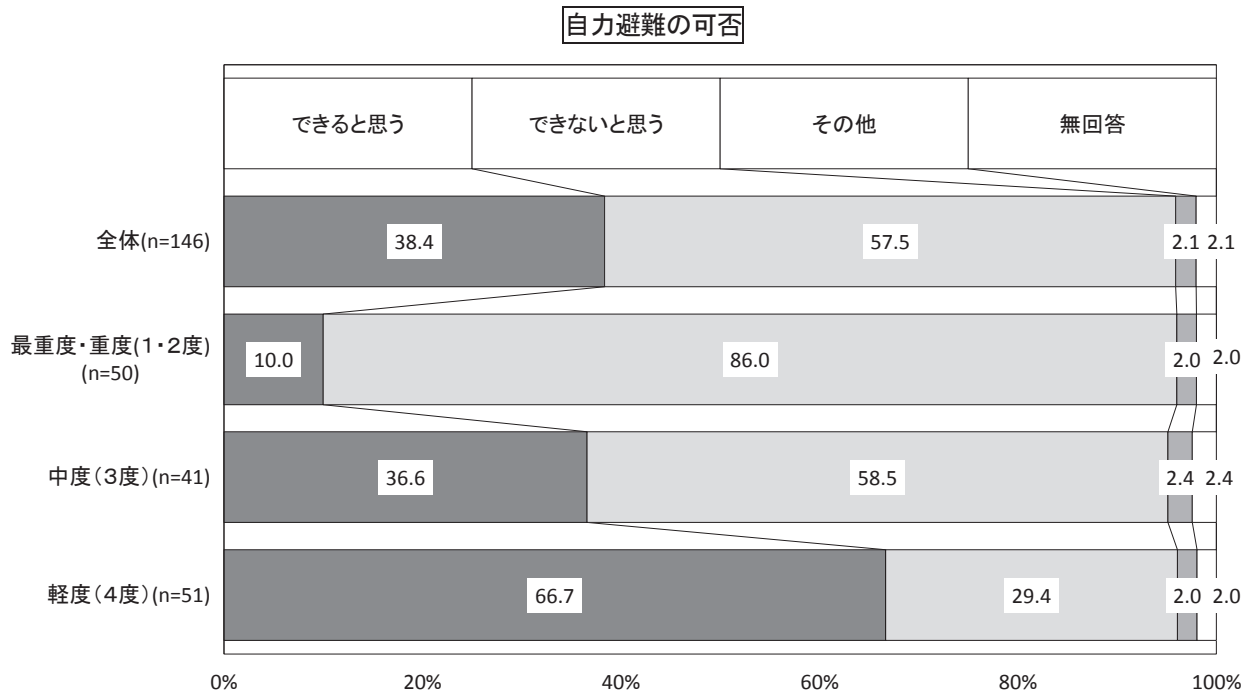
### 自力避難の可否



※ベース：避難拠点認知者

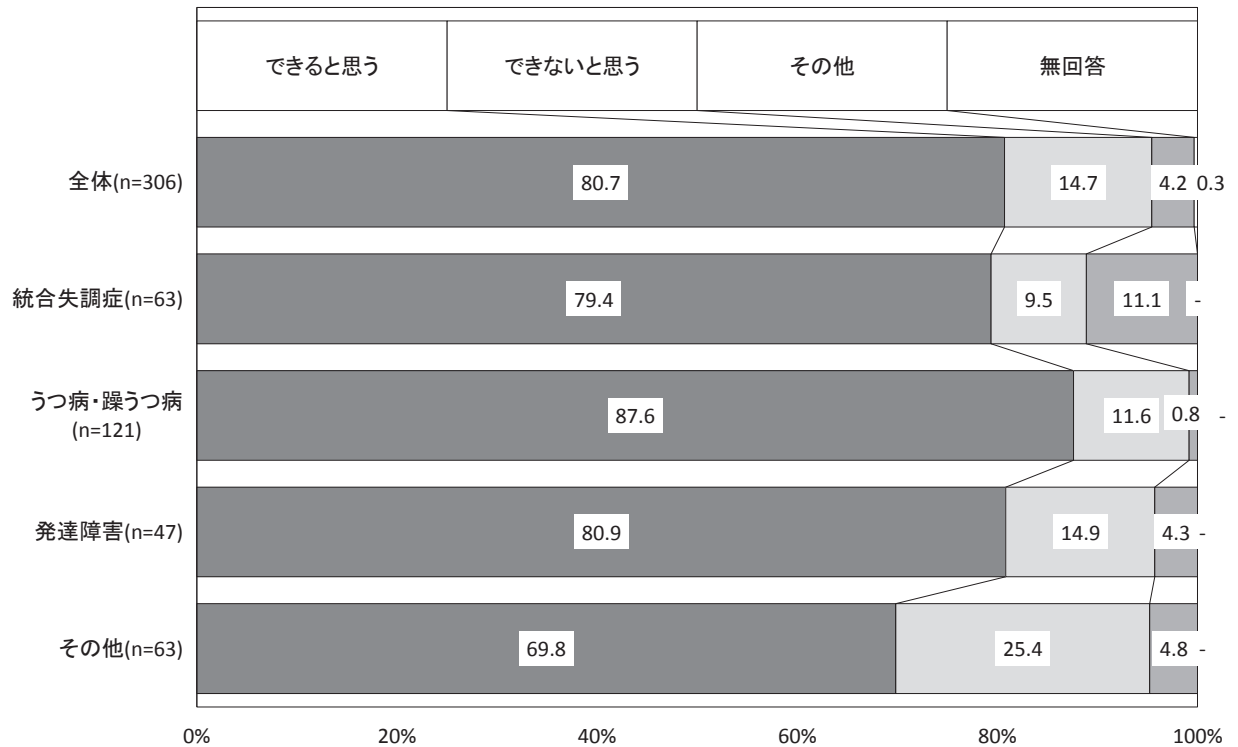
### 【知的障害者】

障害の程度別にみると、軽度（4度）の人ほど「できると思う」の割合が高くなっている。



### 【精神障害者】

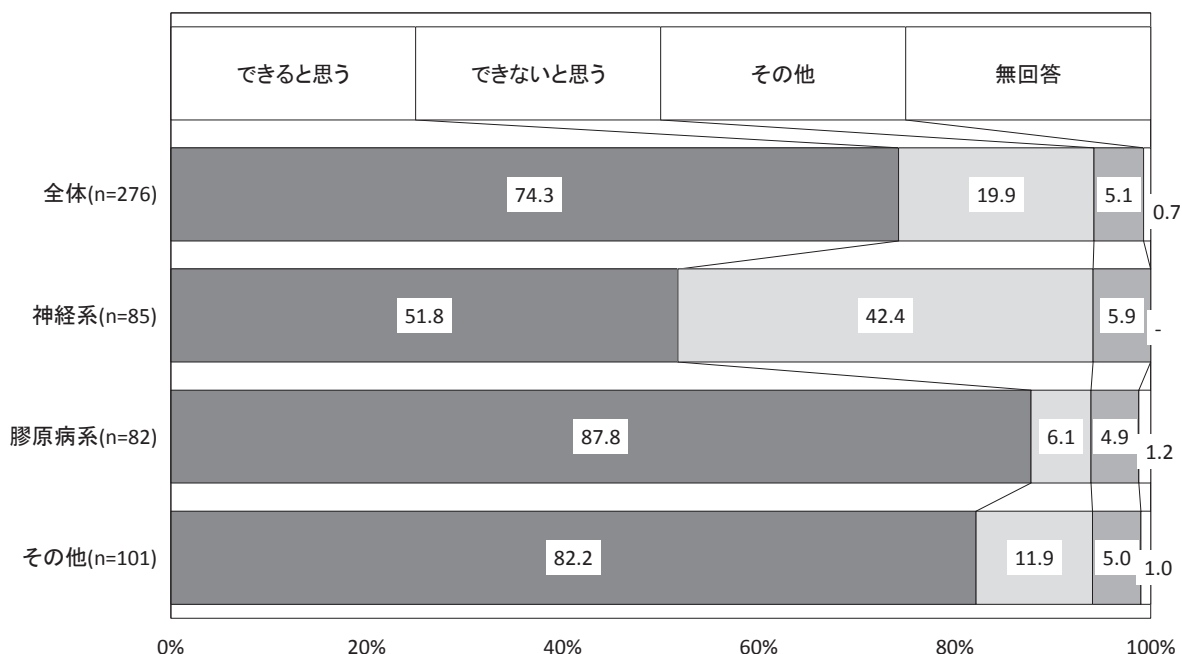
診断名別にみると、うつ病・躁うつ病と診断されている人では「できると思う」が87.6%である。



## 【難病患者】

疾病系統別にみると、膠原病系では「できると思う」（87.8%）、神経系では「できないと思う」（42.4%）がそれぞれ多い。

### 自力避難の可否



※ベース：避難拠点認知者

## (2) 災害に備えて準備していること（複数回答）

災害に備えて準備していることは、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「非常用の食糧や飲料水を準備している」が最も多く、それぞれ47.1%、44.4%、35.5%、53.2%となっている。

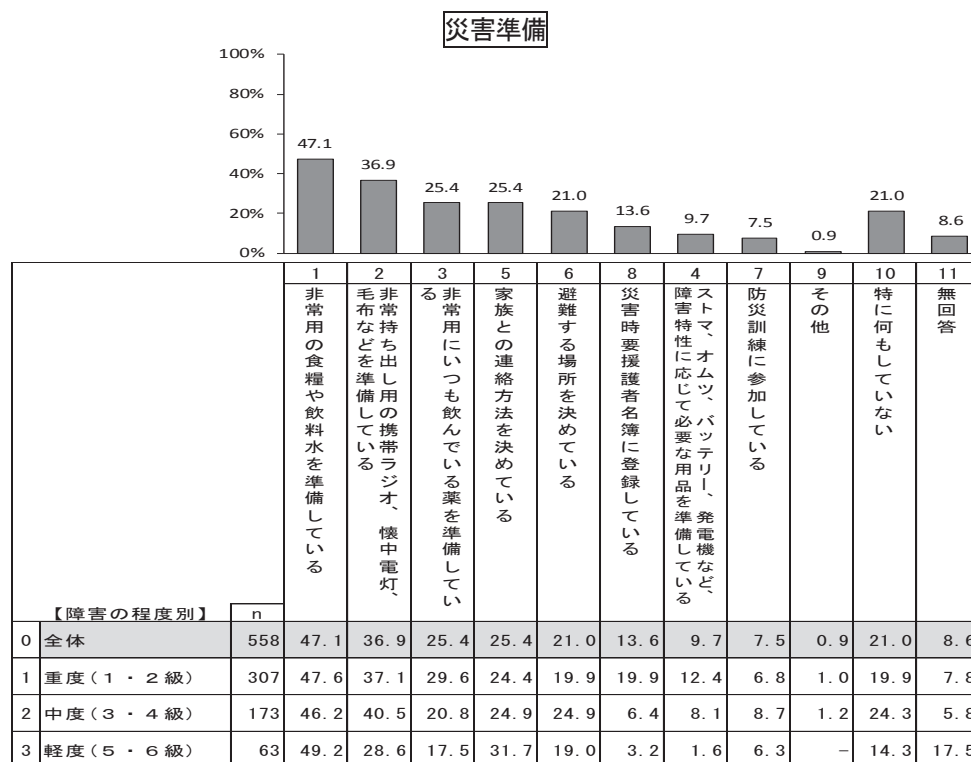
次いで身体障害者、知的障害者、難病患者では「非常持ち出し用の携帯ラジオ、懐中電灯、毛布などを準備している」がそれぞれ36.9%、31.0%、41.3%となっている。

(単位：%)

区分	身体障害者 (n=558)	知的障害者 (n=248)	精神障害者 (n=434)	難病患者 (n=346)
非常用の食糧や飲料水を準備している	47.1 (1位)	44.4 (1位)	35.5 (1位)	53.2 (1位)
非常持ち出し用の携帯ラジオ、懐中電灯、毛布などを準備している	36.9 (2位)	31.0 (2位)	27.0 (3位)	41.3 (2位)
非常用にいつも飲んでる薬を準備している	25.4 (3位)	19.0	22.6	37.9 (3位)
ストマ、オムツ、バッテリー、発電機など、障害特性(症状・病状)に応じて必要な用品を準備している	9.7	8.1	0.9	7.2
家族との連絡方法を決めている	25.4 (3位)	18.1	15.2	28.3
避難する場所を決めている	21.0	19.8	21.4	23.1
防災訓練に参加している	7.5	10.9	6.7	6.6
災害時要援護者名簿に登録している	13.6	18.1	7.1	7.5
その他	0.9	1.6	2.3	2.6
特に何もしていない	21.0	27.8 (3位)	32.0 (2位)	20.5
無回答	8.6	8.5	5.3	2.6

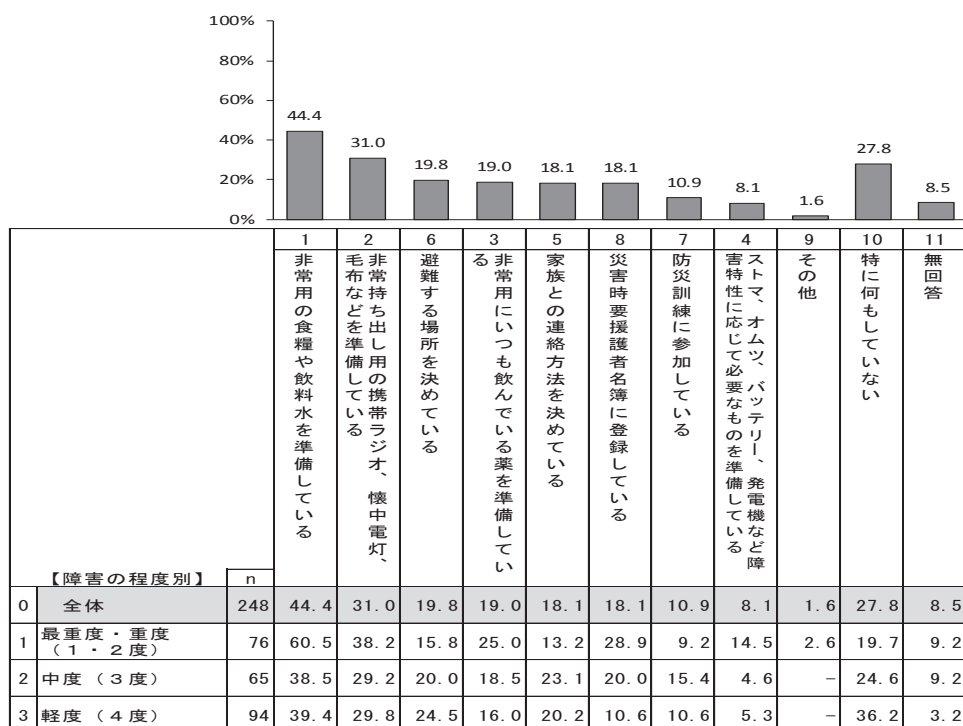
## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、いずれも「非常用の食糧や飲料水を準備している」の割合が高く、重度（1・2級）の人ほど「非常用にいつも飲んでいる薬を準備している」の割合が高くなっている。これに対し、軽度（5・6級）の人ほど「家族との連絡方法を決めている」（31.7%）が多い。



## 【知的障害者】

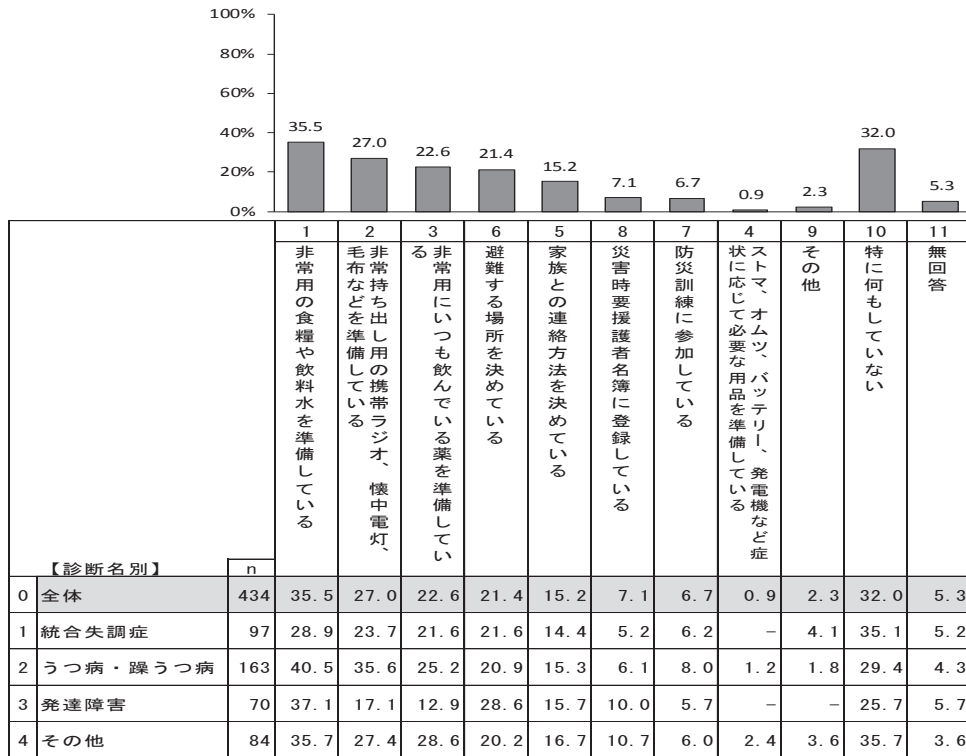
障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）の人ほど「非常用の食糧や飲料水を準備している」ものの（60.5%）、中度（3度）、軽度（4度）ではそれぞれ38.5%、39.4%となっている。これに対し、軽度（4度）の人ほど「特に何もしていない」が多くなっている。



## 【精神障害者】

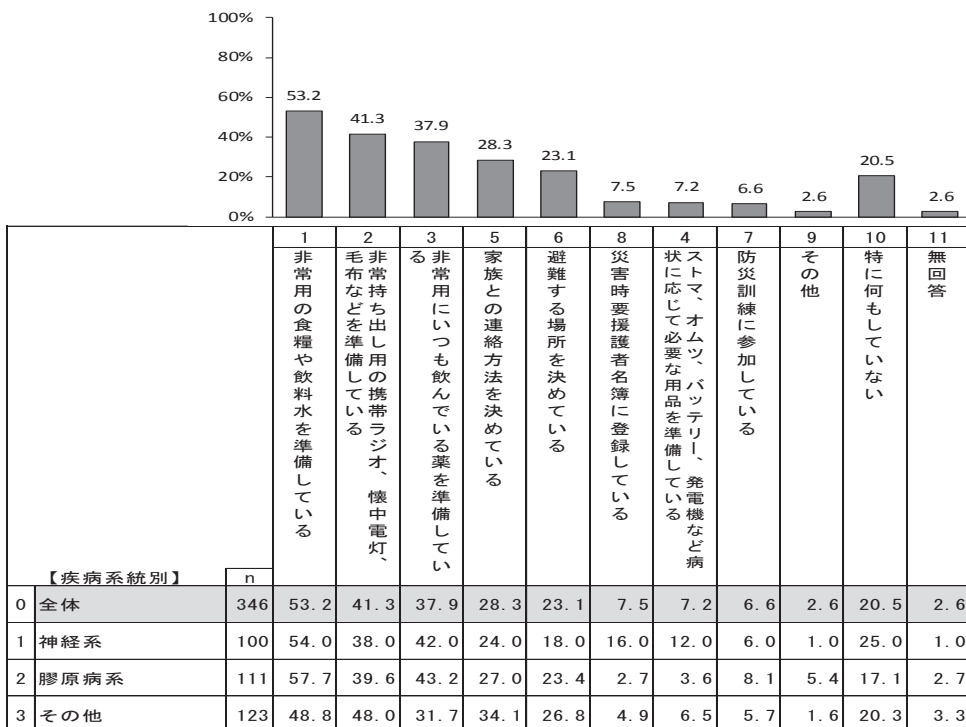
診断名別にみると、うつ病・躁うつ病と診断されている人では「非常持ち出し用の携帯ラジオ、懐中電灯、毛布などを準備している」（35.6%）、発達障害と診断されている人では「避難する場所を決めている」（28.6%）が多くなっている。

災害準備



## 【難病患者】

疾病系統別にみると、神経系、膠原病系ともに「非常用の食糧や飲料水を準備している」（54.0%、57.7%）、「非常用にいつも飲んでいる薬を準備している」（それぞれ42.0%、43.2%）、「非常持ち出し用の携帯ラジオ、懐中電灯、毛布などを準備している」（それぞれ38.0%、39.6%）が多くなっている。





### (3) 災害に備えて必要な対策（複数回答）

災害に備えて、または災害時に必要な対策は、いずれの障害でも「避難しやすい避難所を整備する」が最も多く身体障害者 39.4%、知的障害者 45.6%、精神障害者 46.5%、難病患者 47.7%となっている。次いで身体障害者、難病患者では「避難時に障害者用設備を配置する」が多くそれぞれ 31.4%、35.5%となっている。

知的障害者では、「地域で助け合える体制をつくる」が 44.4%となっている。

精神障害者では、「避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する」が 34.3%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=558)	知的障害者 (n=248)	精神障害者 (n=434)	難病患者 (n=346)
避難しやすい避難所を整備する	39.4 (1位)	45.6 (1位)	46.5 (1位)	47.7 (1位)
障害のある人が防災訓練等に参加するように促す	18.3	26.6	14.3	13.0
日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	29.9	34.7	32.7 (3位)	33.8
緊急通報システムを整備する	26.5	25.8	26.3	33.8
避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する	31.2 (3位)	44.4 (2位)	34.3 (2位)	35.3 (3位)
避難時に障害者用設備を配置する	31.4 (2位)	35.1 (3位)	25.3	35.5 (2位)
避難時に人工透析や在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する	17.0	12.9	15.7	24.6
避難時において視覚障害者や聴覚障害者に配慮した情報提供を行う	28.0	19.0	18.7	21.7
避難時の介助人などを確保する	22.6	34.3	22.8	26.9
避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する	15.4	15.7	13.6	12.4
避難所で補装具等の貸出しを行う	16.5	12.1	10.4	18.8
その他	5.4	10.9	9.4	5.2
特になし	6.3	8.9	10.6	7.5
無回答	12.7	10.9	10.8	7.2

#### 【前回調査との比較】

(単位：%)

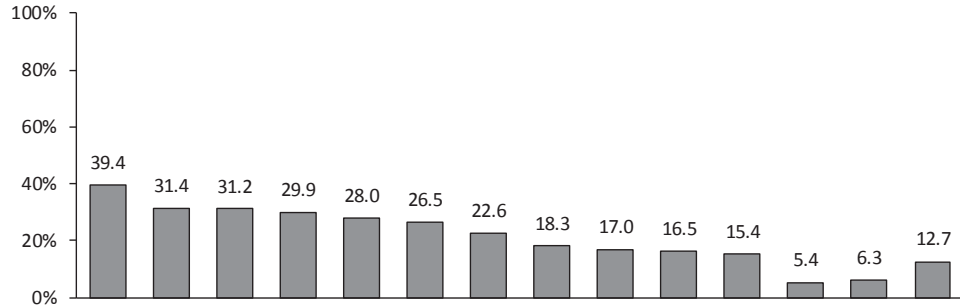
区 分		1 位	2 位	3 位
身 体 障 害 者	今 回 (n=558)	避難しやすい避難所を整備する (39.4)	避難時に障害者用設備を配置する (31.4)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (31.2)
	前 回 (n=2,064)	避難しやすい避難所を整備する (38.5)	避難時に障害者用設備を配置する (36.4)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (29.2)
知 的 障 害 者	今 回 (n=248)	避難しやすい避難所を整備する (45.6)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (44.4)	避難時に障害者用設備を配置する (35.1)
	前 回 (n=350)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (43.7)	避難しやすい避難所を整備する (42.6)	避難時の介助人などを確保する (38.6)
精 神 障 害 者	今 回 (n=434)	避難しやすい避難所を整備する (46.5)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (34.3)	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う (32.7)
	前 回 (n=311)	避難しやすい避難所を整備する (39.9)	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う (37.3)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (35.7)

**【身体障害者】**

障害の程度別にみると、重度（1・2級）の人ほど、「避難時に障害者用設備を配置する」（37.5%）、「避難時の介助人などを確保する」（26.7%）が多い。

障害の種類別にみると、視覚障害、聴覚障害では「避難時において視覚障害者や聴覚障害者に配慮した情報提供を行う」（それぞれ50.6%、58.7%）、肢体不自由（体幹）では「避難時に障害者用設備を配置する」（47.9%）がそれぞれ最も多い。

**必要な災害対策**



【障害の程度別】	n	1	6	5	3	8	4	9	2	7	11	10	12	13	14
		避難しやすい避難所を整備する	避難時に障害者用設備を配置する	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	避難時において視覚障害者や聴覚障害者に配慮した情報提供を行う	緊急通報システムを整備する	避難時の介助人などを確保する	障害のある人が防災訓練等に参加するように促す	命・安全・維持装置を確保する	避難時に人工透析や在宅酸素など生命・安全・維持装置を確保する	避難所で補装具等の貸出しを行う	避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する	その他	特にない
0 全体	558	39.4	31.4	31.2	29.9	28.0	26.5	22.6	18.3	17.0	16.5	15.4	5.4	6.3	12.7
1 重度（1・2級）	307	39.7	37.5	34.5	30.6	29.3	27.7	26.7	17.6	21.2	17.3	17.9	6.8	4.6	9.1
2 中度（3・4級）	173	42.2	30.1	27.7	31.8	25.4	28.3	19.7	19.1	15.0	17.3	14.5	3.5	8.7	13.3
3 軽度（5・6級）	63	33.3	11.1	30.2	25.4	31.7	17.5	9.5	20.6	3.2	12.7	7.9	3.2	9.5	25.4

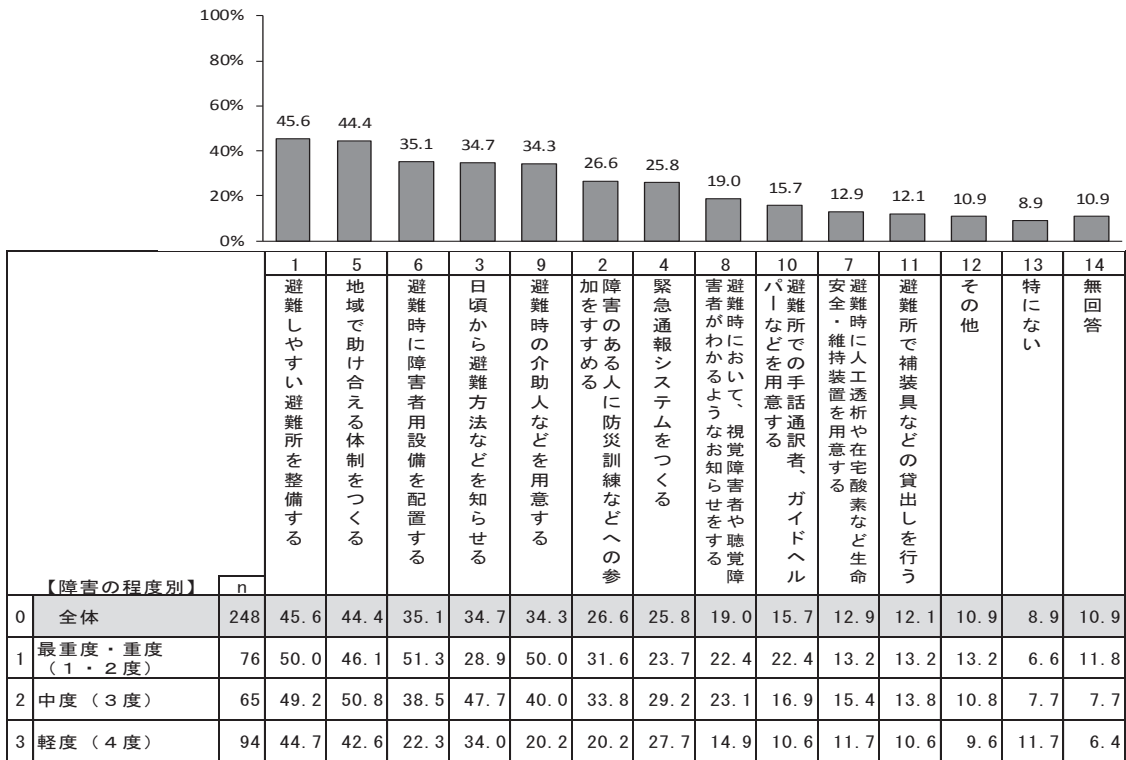
**【障害の種類別】**

障害の種類	n	1	6	5	3	8	4	9	2	7	11	10	12	13	14
1 視覚障害	89	39.3	25.8	37.1	23.6	50.6	21.3	30.3	18.0	7.9	14.6	24.7	3.4	4.5	13.5
2 聴覚障害	92	33.7	19.6	27.2	33.7	58.7	28.3	12.0	26.1	7.6	20.7	33.7	5.4	7.6	10.9
3 平衡機能障害	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	50.0
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	18	38.9	11.1	27.8	11.1	11.1	11.1	11.1	16.7	5.6	-	-	11.1	11.1	22.2
5 肢体不自由（上肢、下肢等）	138	50.0	48.6	41.3	31.2	18.1	29.7	35.5	18.1	21.0	22.5	14.5	8.7	5.8	13.0
6 肢体不自由（体幹）	48	37.5	47.9	33.3	31.3	16.7	27.1	31.3	18.8	10.4	14.6	10.4	4.2	2.1	6.3
7 内部障害	136	34.6	25.0	25.0	34.6	13.2	27.9	13.2	13.2	32.4	13.2	4.4	1.5	8.8	8.8
8 その他	14	35.7	21.4	14.3	28.6	14.3	21.4	7.1	28.6	7.1	14.3	7.1	14.3	7.1	28.6

### 【知的障害者】

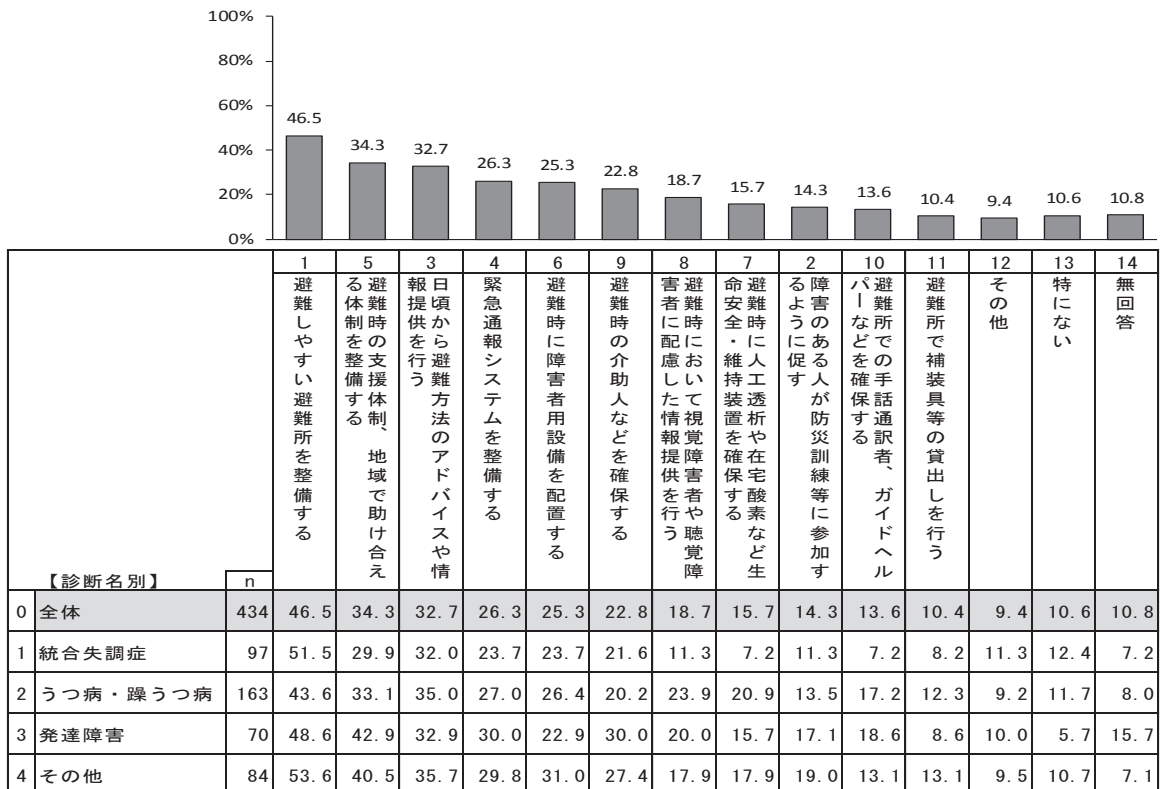
障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「避難時に障害者用設備を配置する」（51.3%）、中度（3度）では「地域で助け合える体制をつくる」（50.8%）がそれぞれ最も多い。

必要な災害対策



### 【精神障害者】

診断名別にみると、いずれも「避難しやすい避難所を整備する」が最も多くなっている。



## 【難病患者】

疾病系統別にみると、神経系では「避難時に障害者用設備を配置する」(50.0%)、「避難時の介助人などを確保する」(44.0%)、膠原病系では「緊急通報システムを整備する」(36.9%)も多くなっている。

必要な災害対策

